

科目名	刑法総論A Criminal Law: General A						
科目担当者	雨宮 敬博 AMAMIYA Takahiro						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 基礎専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(3)
授業の概要	これまでに身に着けた犯罪の知識と刑法の考え方の違いを主に学ぶ。刑法は難解な専門用語が多いが、なるべく平易な表現で分かりやすく進める。						
授業の到達目標	①「犯罪と刑罰」を自分のこととして理解する。 ②感情的な犯罪と刑罰の見方ではなく、刑法の理解に基づく冷静で合理的な判断力を養う。 ③他人事としての犯罪を一方向的に非難するのではなく、同じ社会に生きる生の人間の営為として犯罪をとらえる。						
授業計画・内容	1	刑法と倫理 (justice、人権、人間の尊厳、法益)					
	2	刑法の意義と機能 (刑法の存在意義と目的)					
	3	罪刑法定主義 (犯罪と法律の関係)					
	4	犯罪の概念 (犯罪とは?、犯罪の刑法的な定義)					
	5	犯罪論の体系 (行為、構成要件、違法性、責任、犯罪成立の四つの要素)					
	6	構成要件 (人間の犯罪行為の種類と定型)					
	7	結果 (「即成犯」と犯罪完成に必要な結果)					
	8	行為 (犯罪=行為、行為=身体の動静)					
	9	因果関係 (犯罪の原因と生じる結果の関係)					
	10	故意 (犯罪行為の自己認識)					
	11	過失 (人間のミスが犯罪になる場合)					
	12	違法性と違法性阻却事由					
	13	正当防衛 (犯罪への反撃行為の合法性)					
	14	緊急避難 (犯罪からの避難行為の合法性)					
	15	前期のまとめと前期定期試験の案内					
授業外学修 (事前学修)	Moodle に授業前に掲載するレジュメを読み考える。考えた上で疑問点・質問をメモする。関連事項を PC・スマートフォン・生成系 AI 等を駆使してインターネット等の情報源で調べておく。(毎週 2 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	その回に課題があれば、課題を考えて答える。課題を完成させて次回に提出する。疑問点を調べて考える。(毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	課題の提出及び内容 学期末試験				40% 60%	①、② ①、②、③	
成績評価基準	秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合 ・課題に答えて提出していること						
教科書	三井誠・瀬川晃・北川佳世子編『入門刑事法 [第 8 版]』(有斐閣) 及びレジュメ						
参考文献	その都度案内する						
その他	毎回パソコンを持参してインターネットに接続する。スマートフォンも活用する。						